

「枚方市歯科口腔保健計画」目標値の考え方

目標値の考え方については主に策定時のものを記載。変更修正があるものには※を表記し追記している。現状値は中間報告の算出方法を記載している。

項目番号 1-1：「8020 運動」という言葉を知っている者の割合(小・中・高)

項目番号 1-2：「8020 運動」という言葉を知っている者の割合(一般)

項目番号 2-1：「噛ミング 30」という言葉を知っている者の割合(小・中・高)

項目番号 2-2：「噛ミング 30」という言葉を知っている者の割合(一般)

生涯にわたって口腔内を健全な状態で保つためには、「8020 運動」や「噛ミング 30」の意味を理解し、歯科口腔保健に積極的に取り組んでいくことが大切であることから目標項目とした。

現状値：(平成 30 年度)小学生・中学生・高校生の歯と口の健康に関するアンケート及び(平成 30 年度)枚方市民の歯と口腔に関するアンケート(全年齢)結果より設定。

※併記：策定時の目標設定では「よく知っている」者のみの割合を出していたが、「聞いたことがある」者も含め、認知度として併記する。

目標値：「健康日本 21」では、その言葉の概念の普及状況を図るものとして認知度を指標として掲げている。その目標値を 80%としていることを踏まえ目標値を設定した。

項目番号 3-1：フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の割合(小・中・高)

項目番号 3-2：フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の割合(一般)

フッ素入り歯磨き剤はう蝕抑制効果があるとされており、個人または家庭レベルで手軽にフッ化物応用が可能な方法であるため目標項目とした。

現状値：(平成 30 年度)小学生・中学生・高校生の歯と口の健康に関するアンケート結果より設定

併記：歯磨き剤を使用している者の割合を追記

「フッ素入りかわからない歯磨き剤を使用している」と答えた者を含めた割合

目標値：「健康日本 21」では、フッ化物配合歯磨剤使用者の割合を 90%以上としているため、本市においても同設定とした。

※現在市販の歯磨き剤の 90%にフッ化物が配合されていることから、「フッ素入りかわからない歯磨き剤を使用している」と答えた者の割合を併記する。

項目番号 4-1：過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導を受けた者の割合(小・中・高)

項目番号 4-2：過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導を受けた者の割合(一般)

項目番号 5-1：過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の割合(小・中・高)

項目番号 5-2：過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の割合(一般)

歯口清掃により歯垢(デンタルプラーク)を取り除くことは、う蝕発生の原因除去として基本となるため目標項目とした。

現状値：(平成 30 年度)小学生・中学生・高校生の歯と口の健康に関するアンケート及び(平成 30 年度)枚方市民の歯と口腔に関するアンケート(全年齢)より設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

項目番号 6-1：かかりつけ歯科医を有する者の割合(高校生)

項目番号 6-2：かかりつけ歯科医を有する者の割合(一般)

定期的な歯科検診の受診は、歯周病予防に有効なものであり、その結果として歯の早期喪失も抑制できることが期待されるため、かかりつけ歯科医をもち、定期的な歯科検診の受診が重要である

現状値：(平成 30 年度)高校生の歯と口の健康に関するアンケート及び平成 30 年度枚方市民の歯と口腔に関するアンケート(全年齢)の結果より設定

目標値：「大阪府歯科口腔保健計画」の目標値にあわせ設定した。

項目番号7：3歳児でのう蝕のない者の割合

乳歯列が完成し、よく噛む習慣を身につける時期である3歳児において、むし歯がないことが乳歯列の健全な育成のために不可欠であるため目標項目とした。

現状値：(平成29年度)枚方市3歳6か月児健康診査の結果(枚方市母子保健事業実績報告)より設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

項目番号8：3歳児での不正咬合等が認められる者の割合

3歳児は乳歯咬合の完成期であり、乳歯列の不正咬合を調べるためには最も適した年代であることから目標項目として設定した。

現状値：(平成29年度)枚方市3歳6か月児健康診査の結果(枚方市母子保健事業実績報告)より設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

項目番号9：12歳児でう蝕のない者の増加

12歳児のう蝕有病状況は、学齢期の歯科保健の代表的な指標のひとつであるため目標項目として設定した。

現状値：(平成29年度)枚方市学校歯科診断(中学校1年生対象)より設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

項目番号10：中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の割合

今後、学齢期の口腔保健の向上を図る上で、歯肉炎予防は重要な課題であるばかりでなく、成人期以降の歯周病対策にもつながる大きな健康課題である。学齢期において、正しいセルフケアについての知識と方法を習得し、歯科保健行動を変容することにより、学齢期の歯肉炎のリスクは低減すると予想される。

現状値：(平成29年度)枚方市学校歯科診断(中学校1年生・高校生1～3年生対象)の「歯肉の状態が1及び2」の値を設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

調査項目11：CO・GOと診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の校数

CO・GOは指導によって要観察の状態が健康状態の方向にシフトするためには個別指導が重要であるため、目標項目として設定した。

現状値：(平成30年度)学校歯科保健に関するアンケート調査(市内小中高等学校 養護教諭対象)の結果より設定。

目標値：プリント配付等の個別指導でCO・GOについての知識啓発や、歯磨きの方法の指導等を全校で行えるように取り組む。

調査項目12：学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の割合

歯科健康診断の結果を自分の健康課題と捉えて自分で解決する力を身に付けられるようにするためには、健康診断の結果を知ることが重要であるため、目標項目として設定した。

現状値：(平成30年度)小学生・中学生・高校生の歯と口の健康に関するアンケート結果より設定

目標値：歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者を現状値(策定時)の半分に減らすことを目指す。

調査項目13：20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合

歯周病は、歯の喪失をもたらす主要な原因疾患である。また歯周病は糖尿病や循環器疾患との関連性も指摘されていることから目標項目として設定した。

現状値：(平成29年度)枚方市成人歯科健康診査(20～29歳)の結果より設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

調査項目 14：40 歳代における進行した歯周炎を有する者の割合

歯周病は、歯の喪失をもたらす主要な原因疾患である。また歯周病は糖尿病や循環器疾患との関連性も指摘されていることから目標項目として設定した。

現状値：(平成 29 年度)枚方市歯周病検診 (40～49 歳)の結果より設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

調査項目 15：40 歳の未処置歯を有する者の割合

未処置歯を有する者の低減は、歯の喪失防止に直結するものであることより目標項目として設定した。

現状値：(平成 29 年度)枚方市歯周病検診(40 歳)の結果より設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

調査項目 16：40 歳で喪失歯のない者の割合

歯の喪失は摂食機能や構音機能等の主要な生活機能にも大きな影響を与える。また、歯の早期喪失の防止は健康寿命の延伸にも大きく寄与するものと考えられることから目標項目として設定した。

現状値：(平成 30 年度)枚方市民の歯と口腔に関するアンケート(35～44 歳)の結果より設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

調査項目 17：喫煙と歯周病の関係について知っている者の割合

喫煙は歯周病の二大危険因子のひとつで、喫煙と歯周病は密接に関連しているが、十分に認識されているとは言えず、喫煙と歯周病の関係についての普及啓発が重要であるため目標項目とした。

現状値：(平成 30 年度)枚方市民の歯と口腔に関するアンケート(全年齢)の結果より設定。

目標値：「大阪府歯科口腔保健計画」の目標値にあわせ設定した。

調査項目 18：50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合

歯周病の好発部位である歯間部の歯垢は、通常使用する歯ブラシで落とすことは難しく、デンタルフロスや歯間ブラシ等の歯間部清掃用器具を使用することが大切であるため目標項目として設定した。

現状値：(平成 30 年度)枚方市民の歯と口腔に関するアンケート(45～54 歳)の結果により設定。

目標値：「大阪府歯科口腔保健計画」の目標値にあわせ設定した。

調査項目 19：60 歳で未処置歯を有する者の割合

未処置歯を有する者の低減は、歯の喪失防止に直結するものであることより目標項目として設定した。

現状値：(平成 29 年度)枚方市歯周病検診(60 歳)の結果より設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

調査項目 20：60 歳代における進行した歯周炎を有する者の割合

歯周病は、歯の喪失をもたらす主要な原因疾患である。また歯周病は糖尿病や循環器疾患との関連性も指摘されていることから目標項目として設定した。

現状値：(平成 29 年度)枚方市歯周病検診 (60～69 歳)の結果より設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

調査項目 21：60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の割合

歯の喪失を防止し、咀嚼機能を維持していくという観点から、歯の喪失が急増する 50 歳前後の人に対するより身近な目標として設定した。

現状値：(平成 30 年度)枚方市民の歯と口腔に関するアンケート(55～64 歳)の結果より設定。

目標値：策定時において、「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値を上回っていたため、「さらなる増加」を目標値として設定した。

調査項目 22：80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の割合

20 本以上の自分の歯を有すれば、食生活に大きな支障を生じず、また、歯の喪失予防、口腔機能の維持・向上が寿命の延伸と関連するとの報告から、早い年代から歯の喪失防止が必要であるため目標項目とした。

現状値：(平成 30 年度)枚方市民の歯と口腔に関するアンケート(75～84 歳)の結果より設定

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

調査項目 23：60 歳代における咀嚼良好者の割合

高齢者における咀嚼機能については、その良否が栄養摂取状況や運動機能とも密接な関連性を有するため目標項目として設定した。

現状値：(平成 30 年度)枚方市民の歯と口腔に関するアンケート(60～69 歳)結果より設定。

目標値：策定時において、「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値を上回っていたため、「さらなる増加」を目標値として設定した。

調査項目 24：60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合

歯周病の好発部位である歯間部の歯垢は、通常使用する歯ブラシで落とすことは難しく、デンタルフロスや歯間ブラシ等の歯間部清掃用器具を使用することが大切であるため目標項目として設定した。

現状値：(平成 30 年度)枚方市民の歯と口腔に関するアンケート(55～64 歳)の結果より設定。

目標値：「大阪府歯科口腔保健計画」の目標値にあわせ設定した。

調査項目 25：妊産婦歯科健康診査受診率

妊婦の歯周病は、早産や低出生体重児出産の可能性を増加することが知られているため、妊産婦歯科健康診査の受診を勧める必要があるため目標項目として設定した。

現状値：(平成 29 年度)枚方市妊産婦歯科健康診査より設定。

目標値：受診率は事業開始から 25%前後と横ばいであり、近年の推移と今後の口腔保健のさらなる推進と実現可能性の両方を考慮し目標値を 35%とした。

調査項目 26：障害(児)者入所施設での定期的な歯科検診実施率

障害者等の歯科検診または歯科医療を受けることが困難な者が、定期的な歯科検診や歯科医療を受けることが出来るよう目標項目として設定した。

現状値：(平成 30 年度)枚方市内の障害児・障害者施設における歯と口腔に関するアンケートより設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値は 90%と設定しているが、市においては「入所施設ではすべての施設が歯科検診の実施を目指すべき」との観点から目標値を 100%とした。

調査項目 27：介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率

要介護高齢者の歯科検診または歯科医療を受けることが困難な者が、定期的な歯科検診や歯科医療を受けることが出来るよう目標項目として設定した。

現状値：(平成 30 年度)枚方市内の介護老人福祉施設及び介護老人保健施設における歯と口腔に関するアンケートより設定。

目標値：「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の目標値にあわせ設定した。

調査項目 28：糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合

糖尿病と歯周病はお互いに影響を与えていることについては、十分に認識されているとは言えず、糖尿病と歯周病の関係についての普及啓発が重要であるため目標項目とした。

現状値：(平成 30 年度)枚方市民の歯と口腔に関するアンケート(全年齢)の結果より設定。

※目標値：「大阪府歯科口腔保健計画」の目標値にあわせ設定していたが、目標(策定時)を達成したため、新たな目標値として「50%」とした。